

ざしきわらし

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行 岩手県立二戸病院 図書広報委員会



感染管理室について

感染管理室は、患者さんや御家族、職員を医療関連感染から守るために、日々活動しています。メンバーは、感染制御のために必要な知識を備えた医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員と多職種で構成されており、現場ではインфекションコントロールチーム（ICT）や抗菌薬適正使用支援チーム（AST）として、組織横断的に活動しています。感染管理室の主な活動は以下の通りです。

1. 日頃からの院内感染防止対策の実践と発生した感染症の拡大防止に向けて対策を実施しています。
2. 院内感染防止対策マニュアルの作成・改訂を行い、感染防止のための基本的な考え方や具体的な方法について全職員への周知を行っています。
3. 各種耐性菌サーベイランス及び感染症発生動向調査を行い、感染症情報レポートを発行しています。
4. 週1回程度の院内環境ラウンドの実施、指導を行っています。
5. 抗菌薬の使用状況の把握、適正使用の推進を行っています。
6. 針刺し・切創、粘膜曝露防止など職業感染防止対策を行っています。
7. 全職員を対象とした研修会の開催、院内広報の発行など情報提供や相談への対応を行っています。
8. 感染症の流行が見られる場合には、ポスター等の掲示物や広報を発行するとともに、院内感染アウトブレイク発生時の速やかな対応、職員への感染対策の周知徹底を行っています。
9. 二戸圏域の医療機関と連携し、感染対策に取り組んでいます。



新型コロナウイルス感染症対策について

【感染管理室】

次に感染管理室から新型コロナウイルス感染症の予防に関するお願いです。風邪や季節性インフルエンザ対策と同様にお一人お一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。感染症対策に努めていただくようお願いいたします。

風邪症状があれば、外出を控えていただき、やむを得ず、外出される場合にはマスクを着用していただくよう、お願いします。

集団感染の共通点は、特に、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。

換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。自分のため、みんなのため、そして大切な人のため。私たち一人ひとりが、できることをしっかりやっていく。それが私たちの未来を作ります。

お願い1：外出はできるだけひかえてください。やむを得ず外出する場合には、マスクを着用していただくようお願いいたします。

お願い2：「三密」（密集、密閉、密接）を避けましょう。

集団感染は、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」という共通点があります。できるだけ、そのような場所に行くことを避けていただき、やむを得ない場合には、マスクをするとともに、換気を心がけていただく、大声で話さない、相手と手が触れ合う距離での会話は避ける、といったことに心がけてください。

お願い3：咳エチケット（咳やくしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえること）や手洗いをお願いします。新型コロナウイルス感染症は、罹患しても約8割は軽症で経過し、治癒する例が多いことが報告されていますが、高齢者や基礎疾患をお持ちの方は、重症化するリスクが高いことが報告されています。皆さまご自身を守るため、そして、大切な人を守るため、3つのお願いへのご協力をお願いします。



新型コロナウイルス感染症の相談について

【感染管理室】

続いて、新型コロナウイルス感染症の相談に関するお願いです。次の症状がある方は下記を目安に「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

- 少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐに御相談ください。（これらに該当しない場合の相談も可能です。）
 - ☆ 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - ☆ 重症化しやすい方（※）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
（※）高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方
 - ☆ 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合
（症状が4日以上続く場合は必ずご相談ください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。）
- 相談は、帰国者・接触者相談センター（地域により名称が異なることがあります。）の他、地域によっては、医師会や診療所等で相談を受け付けている場合もあるので、ご活用ください。

（妊婦の方へ）

妊婦の方については、念のため、重症化しやすい方と同様に、早めに帰国者・接触者相談センター等に御相談ください。

（お子様をお持ちの方へ）

小児については、小児科医による診察が望ましく、帰国者・接触者相談センターやかかりつけ小児医療機関に電話などで御相談ください。

※なお、この目安は、相談・受診する目安です。検査については医師が個別に判断します。

センターでご相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いのある場合には、専門の「帰国者・接触者外来」をご紹介します。マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて受診してください。

【相談後、医療機関にかかるときのお願い】

- 複数の医療機関を受診することにより感染を拡大した例がありますので、複数の医療機関を受診することはお控えください。
- 医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケット（咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖・肘の内側などを使って、口や鼻をおさえる）の徹底をお願いします。

出典 厚生労働省ホームページより一部抜粋

ECMO（エクモ）と臨床工学技士

【臨床工学技術科】

世界各国で新型コロナウイルス（COVID-19）が猛威を振るい、日本においても緊急事態宣言が発令され、皆さまも3密を避け、外出の自粛、休業要請等で感染防止に努め生活を送られていることと思います。

日本中に衝撃を与えた志村けんさんの突然の死去で、治療に使用された「ECMO」は重症化した肺炎患者の最終的な切り札として期待されニュースでも取り上げられています。また、COVID-19の治療で使用されている人工呼吸器やECMOのニュースで、最近是我々、臨床工学技士の名前が登場する事が多くなりました。

臨床工学技士は、「医師の指示のもと、生命維持管理装置の操作および保守点検を業とする医療機器の専門医療職種」です。人工呼吸器やECMOも生命維持管理装置となります。

人工呼吸器は、口から挿管チューブを挿入し本体から圧力をかけて肺を膨らませ、高濃度の酸素を投与し肺の機能を補助する生命維持管理装置です。一方、ECMO（Extra-Corporeal Membrane Oxygenationの略称）は体外式膜型肺と日本語で表現され、装置の遠心ポンプを用いて人工肺へ血液を流すことで、血液へ直接酸素を与え二酸化炭素を取り除く（ガス交換）装置で、肺の機能が低下した重篤な患者に使用される装置となります。ECMOの使用期間は2～4週間と言われており、その間に肺にかかる負担を軽くし機能の回復を図るものとなります。

2020年3月、日本呼吸療法医学会・日本臨床工学技士会の調査によるとECMOの配置台数は全国でおよそ1,400台あるそうです。

ECMOを運用するためには、患者管理を行う医師（循環器内科医、心臓血管外科医、呼吸器内科医、集中治療医等）、看護師、機器の操作を行う臨床工学技士が必要となり、24時間体制でデータチェックなどを絶えず管理する必要があるため多くのマンパワーが必要となります。また、取り扱いが難しい機器のため訓練や経験が必要となります。

末筆ではございますが、COVID-19の1日でも早い終息と、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



二戸病院広報「ざしきわらし」第29号（令和2年6月8日発行）

編集発行：岩手県立二戸病院 図書広報委員会

〒028-6193 岩手県二戸市堀野字大川原毛38番地2

TEL 0195 (23) 2191 ・ FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>